

視機能トレーニング機 Supreme Vision L スープリュームビジョン

2000年頃から日本国内のスポーツ界で主流になってきたビジョントレーニングですが、近年は子どもや高齢者にも脳力の向上・維持としてその必要性が求められています。

視機能(ビジョン)は年齢を問わず効果が現れるのでスポーツだけでなく子供から高齢者まで使えるようにソフトを充実し、楽しく・継続できるトレーニング機器です。



トップアスリートも使用

プロボクサー村田諒太選手も取り入れているビジョントレーニング! 数年前からビジョントレーニングを始め、今では自宅でトレーニングできるようにとスープリュームビジョンを導入し、毎日ビジョントレーニングに取り組んでいます。



プロボクサー 村田諒太選手

トレーニング効果測定検証

スープリュームビジョンを国立大学法人九州工業大学の磯貝研究室と共同研究を行い「視機能測定」「認知機能測定」をしました。その結果、有意な結果が確認できました。

視機能測定

トレーニングを実施する事によって「動体視力」「瞬間視」「深視力」「眼と手の共応操作」の視機能向上が確認されました。



九州工業大学大学院生命体工学研究科
脳情報専攻人間環境学博士

磯貝 浩久

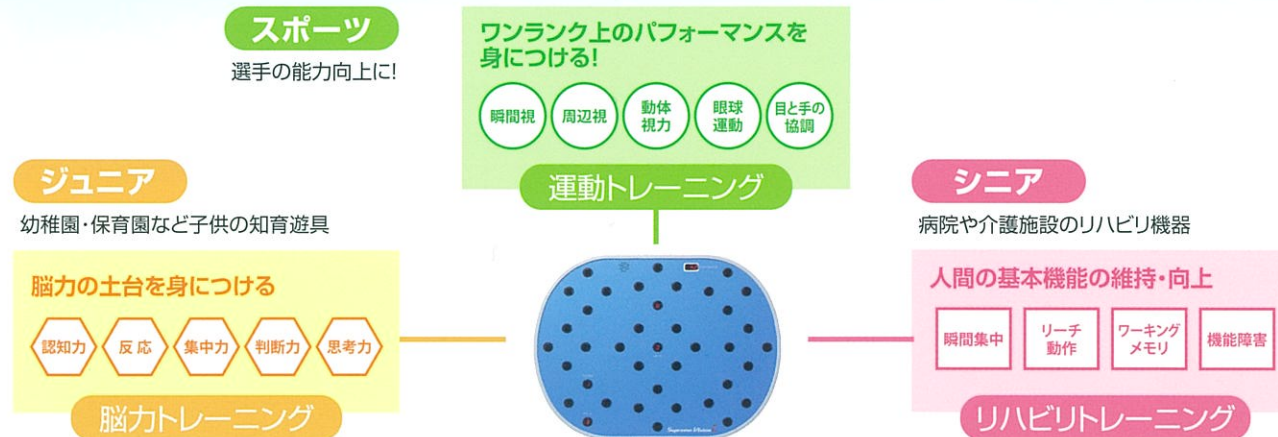
認知機能測定

トレーニング前後に行った新ストループ検査II(認知機能検査)で測定した結果、有意な主効果が認められました。



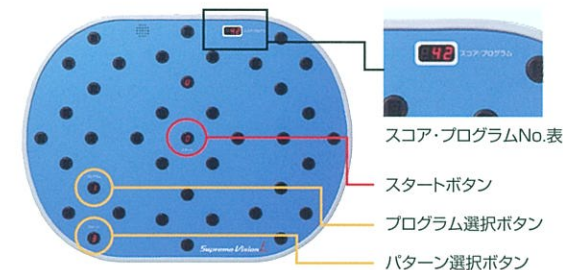
検証実験では約100名の方々に
ご協力頂きました。

こんな方におすすめです



プログラム

スープリュームビジョンはTVゲームやパソコンとは違い広いフィールドで目と体を使ったアナログ的な機器であり、触れるのではなく、指先や掌の感覚でボタンを正確に早く、強く押すという動作を伴うトレーニング機器です。また、目だけでなくメンタル部分を養うトレーニングにも利用いただけます。



BASIC PROGRAM 標準プログラム

目と手の協応動作

人間の動作はいつも「目」がリードし「体」がコントロールしています。視覚情報が正確で体との協調性が高いほど動きの確実性がUPします。目からの情報を得て早く正確に手でたたくという目と手の協調性を養うトレーニングです。

眼球運動

人は物を見る時、見たいものに焦点を合わせるため、眼球の向きを変える働きをする6つの筋肉を動かし、両目をそろえて見えています。眼球運動は動体視力や目と手の協応動作の基礎となる機能です。

OPTION PROGRAM オプションプログラム

トレーニングの目的に合わせて、オプションプログラムをお選びいただけます。

TRAINING

1 周辺視野

周辺視野では細かく見ることや色を見分ける事ができませんが、全体を把握し動いているものを判断する事には長けています。視野を広げ動くものを捕らえる周辺視野のトレーニングメニューです。

2 動体視力

自分の目の前を横切るものを見極める機能です。基礎には眼球運動能力が必要となります。すばやく横切る数字を見極めるトレーニングメニューです。

3 瞬間視

瞬間視は瞬間に情報を得る機能で、目の能力というより脳の能力といえます。見たものを写真のようにイメージするトレーニングメニューです。

4 数字押し

目と手の協応動作は見たものを正確に反応する部分のみですが、数字押しはさらに見た物が正しいか判断する能力を養うトレーニングメニューです。

5 メモリー(記憶)

光る位置を覚える記憶機能と集中力を養うトレーニングメニューです。

6 ナンバー10

広いフィールドから得たい情報を得る空間認知力のトレーニングメニューです。

CHECK

7 視野チェック

ボード7エリアの正解率を表示します。

8 反応チェック

反応時間を測定します。

9 認識チェック

瞬時の判断をチェックします。